

Q & A

Q：高等特別支援学校は、どのような学校ですか？

A: 高等特別支援学校は、知的障がいの程度が軽度の生徒が企業就労を目指して学ぶ高等部単独の特別支援学校です。

Q：高等特別支援学校は、どのようなことを学習しますか？

A: 西濃高等特別支援学校では、必須専門教科として、学年ごとに「喫茶サービス」「ビジネス情報」「ロジスティックス」を、選択専門教科として「工業」「食品」「福祉」「環境」の4つのコースを学習します。

Q：高等学校卒業資格を取得できますか？

A: 高等特別支援学校は、知的障がいのある生徒に対する教育を行う特別支援学校であり、高等学校卒業資格は取得できません。

Q：受検には療育手帳が必要ですか？

A: 高等特別支援学校の生徒は、障がい者雇用での企業就労を目指します。そのため療育手帳が必要です。療育手帳の発行が間に合わない場合は、子ども相談センターや知的障害者更生相談所による知的障がいを有する判定を受けた判定書が必要です。

Q：発達障がい者は受検できますか？

A: 高等特別支援学校の対象者は、知的障がいの程度が軽度の生徒です。そのため、知的障がいのない生徒は出願できません。

Q：入学者選抜検査の内容はどのようなのですか？

A: 昨年度は、学力検査(国語、数学)、適性検査(実技、作文)、個人面接を行いました。今年度については、岐阜県教育委員会の発表で確認してください。

Q：西濃高等特別支援学校の通学区域はありますか？

A: 通学区域は西濃学区と隣接する岐阜学区です。

○西濃地区…大垣市、海津市、養老郡、不破郡、安八郡、揖斐郡

○岐阜地区…岐阜市、羽島市、各務原市、山県市、瑞穂市、本巣市、羽島郡、本巣郡

Q：通学方法はどのようなのですか？

A: 企業就労による社会自立に向けて、公共交通機関等を利用して、一人で自力通学をします。スクールバスの運行はありません。

Q：給食や寄宿舎はありますか？

A: 給食はありません。各自で弁当を用意します。

寄宿舎は設置していません。自宅から一人で通学できる方が対象です。

Q：特別支援教育就学奨励費は支給されますか？

A: 他の特別支援学校と同様に、高等特別支援学校も支給対象となります。

Q：決まった制服やかばんなどがありますか？

A：〔制服〕冬期：ブレザー、カッターシャツ、ネクタイ、スラックスまたはスカート

夏期：カッターシャツ、スラックスまたはスカート

・カッターシャツは白色無地のものです。規定のものがあります。

〔通学靴〕黒色の革靴(ローファー等)

〔ソックス〕スラックスの場合：紺色無地 スカートの場合：紺色無地のハイソックス

〔かばん〕ファイルや着替えなどの持ち運びがしやすいもので、ファスナー等でかばんの口が閉じられるものを各自で準備します。

Q：校則は厳しいのですか？

A：全校生徒が「安全・安心な生活を送る」、「自己指導力を高める」ためのルールがあります。そのルールを守ることの大切について、種々の機会を通して理解を深めます。

Q：どんな部活動がありますか？

A：文化部はパソコン部、美術部、音楽部の3つです。運動部は卓球部、サッカー部の2つがあります。

Q：携帯電話は使用できますか？

A：携帯電話の学校への携行は可能です。学校の始業時刻から終業時刻までの間は使用できません。

Q：アルバイトをすることはできますか？

A：明確な理由があれば、1年生の前期終了後から許可を受けて、アルバイトをすることが可能です。

Q：企業での体験活動や実習はどの程度ありますか？

A：1年生では、職場見学(1日)、職場体験(2日)、企業内実習(6日間)を2回経験します。

2年生では、現場実習(1週間～2週間)を3回経験します。

3年生では、現場実習(2週間連続)を2回経験します。 ※土日は行いません。

Q：どんな資格(免許)を取ることができますか？

A：希望者のみが対象となりますが、「介護職員初任者研修」「ビルクリーニング技能士」「ビジネス文書実務検定」の資格に挑戦することができます。また、就職に向けて、「普通自動車運転免許」や「フォークリフト免許」の取得を3年生で目指すこともできます。

Q：卒業後の進路先はどのようなのですか？

A：県内の一般企業を中心に、障がい者雇用枠での就職を目指します。その他に、一般企業の特例子会社や就労支援A型事業所、就労支援B型事業所、障がい者職業能力開発校等へ進むこともできます。

Q：苦手なことや失敗が多かったりしますが、大丈夫でしょうか？

A：大丈夫です。3年間で、自分の「好きなこと」「得意なこと」「できること」等を自分で理解し、自分にあった職業に就けるよう取り組んでいきます。また、自分でできる対処方法を学習し、まわりの人に支援を求める練習をします。

Q：中学時代にやっておくと良いことはありますか？

A：働くための基礎は、「あいさつ、返事」「正しい生活リズム(欠席、遅刻が少ない)」「働くための体力」です。勉強の他に、これらのことができるよう、日々の生活の中で取り組んでください。